

今回の訴訟を提起するに至った経緯等についてお話しいたします。

1 私が政治に関心を持つようになったのは、高校1年生の時でした。私の通っていた高校では、政治について話す機会はほとんどなく、周囲も政治や社会の話題に触れることに抵抗感を持つ雰囲気がありました。私はそうした環境に違和感を覚えながらも、どうすることもできずにいました。そんな中、私の幼なじみの友人である、若者の政治参加を促進するNO YOUTH NO JAPAN（ノーユース）で活動している久保遼さんと出会いました。久保遼さんは、自分が育ってきた環境や、ノーユースでの活動について話してくれました。そこでは、一人ひとりの意見や個性が尊重され、若い世代だからこそ社会や政治に対して問題提起ができることを大切にしていると知りました。これまで、自分の意見を持つことや、政治について考えることに対してどこかためらいを感じていた私にとって、久保さんの言葉はとても新鮮で、自分の中にあったモヤモヤを少し晴らしてくれるようなものでした。しかし同時に、久保さんが話していた環境は、「自分のいる場所とはあまりにも違いすぎる」とも感じました。私は、自分の置かれた環境の中で違和感を抱きつつも、すぐに何か行動を起こすことはできませんでした。それから約一年後に私はノーユースが先導して進める「立候補年齢を引き下げのためのプロジェクト」に勇気を出して参加し、今も活動しています。

2 私が初めて選挙運動が禁止されていることを知ったのは、高校2年生になる直前の2023年の統一地方選挙の時でした。知り合いが長久手市の市議会議員選挙に立候補することになり、「何か自分にもできることはないか」と考え、選挙活動に関わることにしました。運営会議に参加したり、町の人びとと交流する様子を見たりする中で、候補者がどのように地域の課題を考え、どんな思いで立候補しているのかを直接知ることができました。政治が自分のすぐそばにあることを実感したことを覚えています。しかし、私は「未成年だから」、「選挙のことをSNSに投稿して

はいけない」「町で話すのはダメ」などと行動を制限されました。そのとき初めて、「未成年は選挙運動をしてはいけない」という決まりがあることを知りました。それまで、選挙運動が法律で制限されているという意識はまったく持っていませんでしたし、そもそも選挙運動とは何なのかすら理解していませんでした。ただ、「そういうものなのかな」と思い、言われたことに従うしかありませんでした。結局、応援していた候補者は落選してしまいましたが、この経験が私にとって初めて「政治」に直接関わる機会となり、政治を身近に感じるきっかけとなりました。

3 2024年の東京都知事選では、私はまだ選挙権を持っていませんでしたが、「自分だったら誰に投票するか」を考え、候補者の演説を聞きに行きました。そんなとき、友人が蓮舂さんのボランティアに参加すると聞き、私も手伝いたいと思い連絡を取りました。しかし、返ってきたのは「未成年はダメ」という言葉でした。私は「そういうものか」と一旦受け止めたのですが、前年の統一地方選挙で選挙活動に関わったときとは違い、なぜかとてもがっかりしました。同性婚が認められていないこと、若者が政治に興味を持ちにくい環境、気候変動の問題など、自分の持つ問題意識に自信が持てるようになっていたからです。少しでも自分にできることがあれば関わりたいと思っていました。投票ができないからこそ、候補者を応援することで意思を示せると思っていたのに、それすら許されないのかと感じ、無力感に襲われました。「未成年は政治に関わるな」と言われているように感じ、とても悲しく感じました。

4 私は、未成年者の選挙運動を罰則まで設けて禁止することに強く疑問を抱いています。多くの若者が「政治は自分たちには関係のないもの」「関わらないほうがいいもの」と感じている背景には、このような規制も一因になっているのではないかと感じます。選挙運動禁止の理由は「未成年者を守るため」と説明されています。たしかに、事情をよく知らない子どもが大人に利用されてしまうことは問題です。で

も、未成年を守ることと、罰則をつけて選挙運動自体を禁止することは、まったく別のことなのではないでしょうか。本当に問題なのは、子どもを利用しようとする大人の側であり、未成年者自身に罰則を科すことが適切な対応とは思えません。また、18歳になって急に「選挙に行こう」と言われても、ほとんどの人には、それまで選挙や政治について十分に学ぶ機会がありません。未成年のうちに選挙運動に関わることで、政治をより身近に感じることができるはずなのに、その機会が奪われているのは大きな問題だと思います。

- 5 未成年者を守る方法は他にもたくさんあるはずです。それなのに、「未成年だから」という抽象的な理由で、大切な権利が制限されている現状には納得がいきません。この裁判を通じて、未成年者の政治参加の自由について裁判所が公正な判断を下してくれることを期待しています。

以 上